

ふるさとを持つ幸せ

昭和五十四年七月七日、総理大臣として初のお国入りの際に故郷の香川県三豊郡豊浜町豊浜小学校体育館で行った講演の全文。(初出)

ただいま、帰ってまいりました。(拍手)

就任以来、内外ともたいへん政務多端でございまして、今日までご挨拶が延び延びになりましたことを、ご容赦いただきしたいと思います。(拍手)

今日、帰ってまいりましたところ、町を挙げて心のこもった歓迎をちょうだいいたしましたして、感激でございまして。非常に忙しい皆さんが蒸し暑い酷暑をおかしてお集りをいただきましたことは、ほんとうに身に余る幸せでございませう。ふるさとを持つておる者の喜びというものを、いま満喫させていただいております。ほんとうにありがとうございます。(拍手)

ここへ立ちますと、お礼を申し上げることはかりでございませう。昭和二十七年の十月選挙、ちょうど二十七年前でございましたけれども、第一回目の衆議院選挙に出馬いた

しましたとき、皆様は無名の私に對しまして、絶大なご支援を賜りました。この男、ものになるのかどうか、到底まあ口なものはならないだろう、と皆さん思われたと思います。総理大臣はおるか大臣なんかになれると思つた人は、誰もいなかったらうと思つたのであります。(笑、拍手) 皆さんが思われなかったのも無理はございませぬ。私がそう思つていたのですから。(笑) とても偉くなれるような者ではない、と。

ただ、政治に志して一つまともな仕事を多少なりともやらしていただきたい、と念願しまして出馬をいたしましたところ、町を挙げてご支援を賜りまして、初当選を飾らしていただいたのであります。

第二回目の選挙は、たいへん苦しい選挙でございましたけれども、皆さんの力で助けていただきました、危いところを当選さしていただきました。それからますますご厄介になりまして、今日にいたるまで雨の夜も風の日も霜の朝も、終始かわることないご支援をいただいたわけでございます。お陰様で一回の選挙も失うことなく、終始、衆議院の貴重な議席を全うさせていただいたのでございます。

二十七年の間に、ちょうどその半分が失業の無役議員でございました。半分は党の役員として、あるいは内閣の閣僚

として務めさせていただったのでございます。ひとわたり
の経験を踏ましていただきました間に、運に恵まれて
去年の暮には最高の責任のある立場に立つたわけでござい
ます。

さらに皆さんのかわらないご支援、ご鞭撻を仰ぐ者でござ
います。どのようにして、お礼を申し上げていくか、ど
のようにしてこのご恩返しをしたらいいか、はたと思ひ悩
むわけでございます。

やがて私も、おそらくこういう仕事から解放されまして
町民の一人となり、皆様にお付合いをいただかなければな
らない立場でございます。どう考えてみても、ご厄介にな
りつ放してございますが、ここで、ひっくるめて厚く厚く
お礼を申し上げる次第でございます。(大拍手)

私、去年の暮、はからずもこういう立場になりました考
えたのでございますが、これから政治を預る身といたしま
して、たいへんやりにくい世の中になったと思つたのです。
順調に事が運ぶときというのは、なんでもうまく行くもの
でございますが、一つつまずいてまいりますと、なかなか
うまく行かないのが世の常でございます。

日本の国も、戦後だけをみましても、三十年近くは、去
年より今年、今年より来年というように、だんだんと世の

中が進歩、発展してまいりました。昭和二十年代を思い起
こしますと、われわれ、いかにして食い物にありつくかと
いうことで、汲々としていたのでございます。かつぎ屋が
横行した時代でございます。しかし、十年ほど経つてみま
すと、どうやら食い物は間に合うようになったわけでござ
います。昭和三十年代というのは、着る物を用意するとき
であったと思つてでございます。人並みの季節の衣服を身
にまとうことができる時代を迎えたのでございます。昭和
四十年代というのはどういつ時代であったかと申します
と、住まいを整える時代であったと思つております。

衣食住、われわれの生活の三大要素であるものの一つ一
つが、この三十年の間にどうやら間に合うようになってま
いりました。われわれは戦後の激動の中から、人間らしい
生活がどうやらできるようになったわけでございます。

ところが世の中うまくいことばかりありませんで、大企
業が発達してまいりますと公害が増えてまいり、交通が便
利になりますとだんだん世の中が騒々しくなつてまいりま
す。われわれの生活程度が上がりますと、諸外国から買わ
なければならぬ原材料、燃料というものが増えてきまし
た。それが値段が安ければいいけれども、値段がアップし
てまいりますと、われわれの暮らしもなかなか案でなくな

つてくるわけでございます。

約五年半くらい前から、どうも日本の内外の雲行きがよくなくなりまして、石油の値段が一ぺんに四倍にも跳ね上がってみたり、不況の様相が出てきまして、世の中はたいへんに暗くなってきたわけでございます。日本という国がどうなることかと心配をし始めたのは、私一人ではなくて、多くの国民が心の中で心配をしていたと思うのでございます。この苦しいなかを、この四、五年、よく頑張りまして、どうやら石油危機を脱却できたかと思っております。矢先、去年の暮から今年にかけてまして、第二の石油危機が起こったということです。なかなかままならぬものでございます。したがしまして、これからの政治をお預りいたしましたけれども、たいへんやりにくい時期がきたわけです。

したがって私は、首相就任に当たりまして、皆様にとぞ政治にあんまり大きな期待を寄せないようになさりたい、われわれ一所懸命にやりますけれども、そんなに皆様のご期待に応えられるようないい仕事はできそうにありません。しかし精一杯やります、というふうなことを申し上げました。何とということをつつのだ、もっとスッパリと言ったほうがいいのではないか、という方もおられたと思えますけれども、私、正直な者でございますから、そ

んなうまいことを言えなかつたのでございます。

そういう面倒な時期に政権を預ることになったわけでございますが、この間におきまして、皆様のご支援、ご鞭撻を心の支えといたしまして、今日までやってまいりましたわけでございます。予算を組み、これも成立さしていただいたわけでございます。内政外交、首脳外交も、どうやら大過なく終えさせていたただいたわけでございます。苦しいながら喘ぎながら、どうやら大過なくやらせていただいている所以のものも、皆様がたからの心の支えがあるからでございます。私に帰る郷土があることが、私を勇気づけてくれるわけでございます。

これからも、困難な時代、面倒な時代にわれわれは対応しなければならぬと思つてございますけれども、一所懸命に頑張りまして、皆様の期待に応えなければならぬと考へております。どうぞ、変わらぬご支援を従来と同様、賜りますように。そしていつまでこういう仕事を世間がやらせてくれるかわかりませんが、明日でも、お前は辞めるということにならないとも限りません。しかし辞める瞬間まで私は全力投球して、責任を果たさなければならぬと考へております。

皆様におかれまして、健康にご留意されまして、毎日

の仕事にご精進をされ、わが愛する豊浜町が秩序正しい、品格のある、そして豊かな立派な町として育ってまいりますように、私は祈っておる次第でございます。公私にわたりまして、何かと問題がございますならば、微力でございますけれども、ご一緒に取り組み、皆様の願いにこたえていかなければいかん、と考えております。

終始かわらない気持で公務に携わるつもりでありますので、また引き続きご厚誼をお願いしたいと思っております。また私がこういう仕事をしておりますと、しょっちゅう帰ってまいりまして、お目にかかるということも、なかなかできかねるわけでございます。私の動静は毎日、新聞で報道していただけることと思っております。皆様も、手にとるように私の活動は、毎日、見ていただけることと思っておりますが、もしどうしても困ったことがございますならば、ご遠慮なく叱正いただきませうように、くれぐれもお願いを致す次第でございます。

官邸の主人公になってまいると、えてして世間にごとくなるという注意を受けておるのでございます。地位は高くなつたかもしれませんが、人間の値打が偉くなつたわけでは決してございません。毎日毎日、謙虚な気持で学ぶことがなければいけないと思つてゐるわけでございます。何

事によらず、お気づきの点はどんどんご注意を賜りますように、お願いしたいものと思ひます。

私も、豊浜町の行き方につきまして気がつきましたことは、合田町長を通じて、いろいろお願いすることがあるうかと思つてございます。お互いにかげがえのない大事な町でございます。先祖の霊が眠つておる大事な町でございます。この町が平和で、そして心豊かな暮らしを生ずるいい町になってまいりますことを、町民の仲間入りさせていただいた一人として念願するものでございます。

私を生み、私を出したばかりに、皆様、たいへんエライ目に遭つてゐると思つてございますけれども、このご恩はなんらかの形で、いつか私はお報いしなければならんと考えております。(大拍手)ほんとうにありがとうございます。これでご挨拶といたします。

「わが豊浜町の繁栄と豊浜町民の皆様のご健勝を祈念して」万歳を三唱します。ご唱和を願ひます。